

## ▼企画展・イベントなど

- 11月3日(金・祝)～令和6年5月12日(日)／企画展「牧野富太郎物語」
- 11月23日(木・祝)～26日(日)／寒蘭展

## ▼教室

- 10月1日(日)／ふむふむ子ども教室
  - 10月8日(日)／ふむふむワークショップ 当日受付
  - 10月14日(土)／川原園長と薬用植物区を歩こう
  - 10月15日(日)／見ごろの植物ガイドウォーク 当日受付
  - 11月5日(日)／ふむふむワークショップ 当日受付
  - 11月19日(日)／見ごろの植物ガイドウォーク 当日受付  
くらしの植物教室
  - 11月25日(土)／カンランの栽培教室 HPのみ
  - 12月3日(日)／ハーブの教室
  - 12月10日(日)／ふむふむワークショップ 当日受付
  - 12月17日(日)／見ごろの植物ガイドウォーク 当日受付  
ふむふむ子ども教室
  - 毎月第2水曜日・第4日曜日 10:00～／草花を描く
  - 毎月第2水曜日・第4日曜日 13:30～／ふれあい植物観察会
- ※12月は第2水曜日(12月13日(水))のみ開催

## 【教室の申込方法】

当園ホームページの「イベント・植物教室」の中の植物教室ページ、またはFaxから申し込みください。入園窓口でも直接申し込みいただけます。

## ▼キッズラボプログラム

- 10月7日(土)／植物の色の性質を調べてみよう!
- 10月15日(日)／葉を観察してみよう!～'毛深い'編～
- 10月21日(土)／植物の色の性質を調べてみよう!
- 10月29日(日)／葉を観察してみよう!～'毛深い'編～
- 11月4日(土)／植物から色を取り出してみよう!～色付き石鹸づくり～
- 11月12日(日)／種子を観察してみよう!～小さな小さなランのタネ～
- 11月18日(土)／みかんの成分を調べてみよう!
- 11月26日(日)／種子を観察してみよう!～小さな小さなランのタネ～
- 12月2日(土)／土佐備長炭で電池をつくってみよう!
- 12月10日(日)／世界一高価なスパイス サフランについて学ぼう!

## 【キッズラボプログラムの申込方法】

当園ホームページの「イベント・植物教室」の中の植物教室ページからお申し込みください。電話、Fax、入園窓口、および当日会場ではお申し込みいただけません。あらかじめご了承ください。

## 【お申し込みについて】

- 申込先 ホームページ [www.makino.or.jp](http://www.makino.or.jp) Fax 088-882-8635
  - 申込開始日 開催前月の第1水曜日 9:00～(先着受付順)
- ※企画展・イベント・教室等の内容を変更または中止させていただく場合があります。最新情報はホームページでご確認ください。

## Information

## 牧野植物園からのお知らせ

植物研究交流センターのオープンに伴い、新たな入退園窓口として建物の3階部分に「中門」を開設しました。窓口を上げると高知県産木材を多用した開放感あふれるエントランス広場が広がり、デッキからは南園を一望できるつくりとなっています。牧野植物園の新たな入口「中門」をどうぞご利用ください。

※南園温室横の「南門」は現在工事のため閉鎖中です。  
※牧野ミュージアムショップサクラおよびレストランC.L.GARDENのみご利用の方は入園料をいただいておりません。中門窓口までお申し付けください。



## Restaurant information

## レストランからのお知らせ

## レストランC.L.GARDEN

国産の合い挽き肉を使用しオーブンでじっくり焼いた、シェフ自慢のハンバーグランチ。注文を受けてからひとつひとつ丁寧に焼き上げます。たまねぎをふんだんに使用した自家製デミグラスソースは絶品です。



シェフ特製ハンバーグのココットランチ  
(ライス、サラダ、スープ付き)  
1,400円(税込)

## 周遊観光バス「MY遊バス」のご案内

- JR高知駅から牧野植物園までMY遊バスで約30分。
- MY遊バス乗車券を牧野植物園の窓口提示で、入園料が100円引き。
- 料金／[五台山券(JR高知駅→竹林寺前)]  
大人(中学生以上)600円 子ども(小学生)300円
- MY遊バスに関するお問い合わせ  
運行について／とさでん交通(株) Tel 088-833-7171  
乗車券について／(公財)高知県観光コンベンション協会 Tel 088-823-1434

## 高知県立牧野植物園 ご利用案内

[開園時間] 9:00～17:00(最終入園16:30)  
[休園日] 年末年始(12/27～1/1)  
[メンテナンス休園日] R5/10/30、11/27、R6/1/29、6/24、9/30、11/25、R7/1/27  
[入園料] 一般730円(高校生以下無料)  
団体630円(20名以上)、年間入園券2,930円  
※身体障がい者手帳、精神障がい者保健福祉手帳、療育手帳、戦傷病者手帳、被爆者健康手帳所持者と介護者1名および高知市・高知県長寿手帳所持者は無料

## 【交通案内】

はりまや橋から車で約20分  
高知自動車道「高知IC」から一般道で約20分  
高知自動車道「高知JCT」経由、東部自動車道「高知南IC」から約15分  
高知龍馬空港から東部自動車道経由で約25分  
※道路案内板の「五台山」または「牧野植物園」「竹林寺」を目標指してお越しください。

植物園駐車場の混雑が予想されます。【高知新港臨時駐車場+シャトルバス(1時間毎運行)】の利用にご協力をお願いいたします[12月3日(日)までの土日祝日のみ運行]。詳細情報▶



## 高知県立牧野植物園 友の会 会員募集

[特典] ※会員ご本人のみの特典です。  
①窓口で会員カードを提示していただくと、入園料無料。  
②「牧野植物園だより」(年4回発行)や、催し物案内を定期郵送します。  
③牧野植物園が主催するイベントや教室に会員価格で参加できます。  
④本館のカフェ arbre、ボタニカルショップ nonoca ご利用時にカードを提示していただくと、現金でのお支払い時のみ5%の割引が受けられます。(植物研究交流センター3階のレストラン C.L.GARDEN および牧野ミュージアムショップ サクラでの適用はありません。また一部割引除外品があります。)  
[会費] 普通会員/年額 4,000円 賛助会員/年額 10,000円  
[入会のお申し込み・お問い合わせ] 088-882-0448 友の会担当まで



## 牧野植物園ロゴマーク: バイカオウレンの葉

バイカオウレンは、早春に小さな白い花を咲かせます。高知では春一番を告げる花として、牧野富太郎博士が特に好んだといわれています。晩年東京で暮らした牧野博士にとって故郷を思わせる懐かしい植物でした。

## 高知県立牧野植物園だより No.93 令和5(2023)年10月10日発行

[編集・発行] 公益財団法人 高知県牧野記念財団  
〒781-8125 高知市五台山4200-6 高知県立牧野植物園  
Tel 088-882-2601 Fax 088-882-8635  
[印刷] 有限会社 西村隆写堂

[www.makino.or.jp](http://www.makino.or.jp)



## 高知県立 牧野植物園だより



ソナレノギク [キク科]  
Aster hispidus Thunb. var.  
insularis (Makino) Okuyama

四国南西部の海岸に生育する越年生草本。茎はがっしりして斜上し、葉に光沢があり、茎や葉はほぼ無毛。花は淡い紫色で10～11月に咲く。牧野富太郎博士が、明治18(1885)年高知県大月町柏島で採集した標本にもとづき、明治31(1898)年に学名と和名を付け新種として発表した。現在ではヤマジノギクの変種とされる。和名は磯馴から。



News

# 植物研究交流センター (ラボテラス)オープン

磨き上げ整備基本構想の第6弾ついに完成

平成29(2017)年12月に策定された「県立牧野植物園磨き上げ整備基本構想」では「世界に誇れる総合型植物園として牧野植物園のポテンシャルを最大限発揮し、魅力を高めるため磨き上げを実施する」という目標を掲げ、平成31(2019)年にここん山広場とふむふむ広場を整備し、園地を拡張したことを皮切りに、南園では夜間照明設備の設置、展示館では新たにVRシアターと牧野蔵が設置されました。そしてその第6弾として、耐震性に問題のあった旧資源植物研究センターを建て替えるとともに研究機能の統合により研究の加速化と開かれた研究を実現するために施設規模を拡大し、令和5(2023)年5月20日(土)に植物研究交流センター(愛称:ラボテラス)としてリニューアルオープンしました。

植物研究交流センターはバリアフリーに配慮し、第1駐車場からのスロープと3階部分が同じ高さに設計されているため、来園者は3階部分の中門からも入園することができ、エレベーターで1階に降りるとそのまま南園の温室や展示館方面へ通じる園路に出ることができます。これまでは南門から退園すると駐車場までの急な傾斜を登らなくてはならず、車いすやベビーカー連れの来園者の負担となっていました。交流センター3階の中門を利用することでその負担が軽減されることになりました。なお、南門は現在工事のため閉鎖中です。



1階の交流スペース

私たちを取り巻く世界は日々変化しており、植物園に求められる役割も憩いの場の提供や植物に関する教育普及だけでなく、絶滅危惧種や外来種などに関する地域の植物調査、植物の多様性



植物研究交流センターの外観

の保全とともに医薬品や特定機能食品としての植物資源の探索など多様化しています。植物研究交流センターではこれらの期待に応えるために、植物分類学、有用植物学の研究者が同じフロアに集結して分野の垣根を越えて研究を進めます。

牧野植物園が有する世界有数の植物標本、植物コレクションをエキス化したエキスパララー、希少植物の栽培技術、薬用植物生産栽培や実験研究技術などの強みを最大限に生かし、その成果を高知県の産業振興につなげていきます。

植物研究交流センターではこれまで非公開だった生物学実験室や化学実験室、生薬標本庫が1階部分の公開スペースにあるため、生物学実験室では遺伝子情報を抽出して解析するようすや、化学実験室では医薬品や医薬部外品などの創薬の原料になる植物のエキス化や有用成分の抽出と単離・同定を行っている職員の様子をガラス越しに見ることができます。また、生薬標本庫では、牧野植物園がこれまで海外植物調査で採集してきた植物サンプルや漢方薬原料となる植物生薬、鉱物生薬、動物生薬など見ることができます。

さらに植物研究交流センターには、植物の不思議を観察や簡単な実験を通して学べる子ども向けの学習プログラムを実施するキッズラボや、企業や大学などの研究機関に所属する研究者と共同研究を積極的に進めることができるジョイントラボ(オープンラボラトリー)も併設されており、まさに交流の名にふさわしい場所を提供しています。3階部分にある中門窓口と同じフロアには南園を眺望できるレストラン「C.L.GARDEN」や牧野博士に関連するグッズを販売する「牧野ミュージアムショップ サクラ」があり、園内の散策の後は食事や買い物をお楽しみいただけます。(松野倫代)



1階の化学実験室での研究の様子



3階のエントランス広場

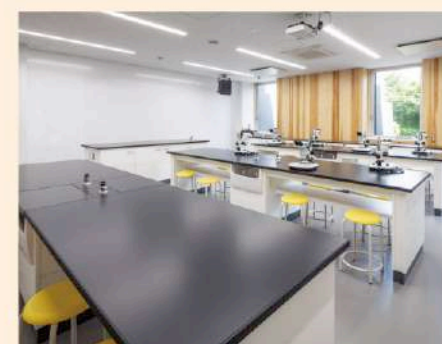
News

# キッズラボで 学習プログラムがスタート

学習プログラムの様子



植物研究交流センターのオープンに伴い、1階にある学習プログラムを行うための実験室、「キッズラボ」の運用がはじまりました。キッズラボでは最大24名が同時に実験を行うことができ、通路側がガラス張りとな



キッズラボの様子

になっているため、子どもたちが学ぶ姿を部屋の外から見学することができます。実験室という特徴を生かし、従来の教室に加え、主に小中学生を対象とした、より専門的な内容を含む学習

プログラムを実施する予定です。植物園ならではの植物を使ったプログラムを通して、子どもたちが植物に対して興味を持つきっかけや、より植物を詳しく知ることができる機会になればと思っています。

6月からは無菌培養の体験や顕微鏡を使った植物の観察などの教室を主に小学生を対象に行い、多くの子どもたちや保護者の皆さまにご好評いただいています。今後も植物園内の職員のみならず、牧野植物園と共同研究を行っている企業や大学にもご協力いただき、幅広い内容の学習プログラムを実施していきます。

当園が主催するプログラムについては、ホームページで事前予約を行っていますので、ご興味のある方はぜひチェックしてみてください。(白河潤一)

News

# レストランとショップが 新たにオープン!

これまで本館にて長らく親しまれてきた「レストランarbre」が、装い新たに「C.L.GARDEN」として植物研究交流センター3階にオープンしました。南園の絶景を一望できる開放感あふれる店内では、シェフ自慢のハンバーグランチをはじめ、ふもとの市場で仕入れた魚や旬の野菜をふんだんに使った地産地消の洋食メニューを提供しています。さらにカフェタイムには期間限定のメニューも登場する予定です。

新たにオープンした「牧野ミュージアムショップ サクラ」では、「牧野博士をさまざまな角度から研究するラボ」をコンセプトに、博士の業績を顕彰する商品を中心に販売しています。ルーベやハサミなど博士の七つ道具をテーマにした商品や植物園をあしらった文房具、そのほか当園オリジナル商品のMakino original blend teaやマキノソルトなど、サクラならではの厳選グッズを豊富に取り揃えています。

植物園の新たな魅力が満載のスポットとなっていますので、ご来園の際は両店舗へもぜひお立ち寄りください。(橋本渉)



【C.L.GARDEN】

営業時間 9:00~17:00  
モーニング 9:00~11:00(O.S. 10:30)  
ランチ 11:00~15:00(O.S. 15:00)  
カフェタイム 15:00~17:00(O.S. 16:30)

Tel/088-802-6951  
※カフェarbreは展示館より移転し本館にて営業しています。



【牧野ミュージアムショップ サクラ】

営業時間 9:00~17:00  
Tel/088-802-6286  
※ポタニカルショップnonocalは本館にて営業しています。



Report

# 日本植物園協会 第58回大会が開催されました

全国の植物園関係者が高知に集結

大会開会式の様子



## ○高知大会

公益社団法人日本植物園協会では、全国の植物園関係者が一堂に会す全国大会を毎年開催し、大会の開催は協会の加盟園が持ち回りでを行っています。令和元(2019)年の第55回大会は当園が主催園となる予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大第1波の影響により中止となってしまいました。しかしこのたび第58回大会を主催する機会をいただき、今回で当園が3回目の主催となった第58回大会は、令和5(2023)年5月29日(月)から31日(水)の3日間、全国から50園140名を超える参加者を集め開催しました。

## ○開会式・表彰式・ナショナルコレクション認定証授与式

日本植物園協会総裁 秋篠宮皇嗣殿下のご臨席のもと、西川綾子会長の開会宣言により大会がはじまりました。皇嗣殿下からは、環境問題や持続可能な開発目標(SDGs)などに対して植物園の果たす役割が大きくなっていることから、大会において活発な議論と意見交換がなされ植物園協会の活動の意義が深まることや、NHKの連続テレビ小説「らんまん」により牧野博士や植物への注目が集まり、これにより植物園への関心が高まることを願っている旨のお言葉をいただきました。また、当園のご視察についても触れられ、35年前にご来園いただいた時のことを「懐かしく想い出します。」とおっしゃっていただきました。

表彰式では顕著な功績や業績があった3名と1団体が表彰され、ナショナルコレクション認定証授与式では後世に守り伝えていくべき貴重な植物コレクションを有する3団体に認定証が授与されました。



秋篠宮皇嗣殿下お言葉の様子

## ○意見交換会

意見交換会は、新型コロナウイルス感染症拡大のために実施できない状況が続いていました。しかしこのたび新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されたことや感染者数が減少したことにより、飲食の再開までは叶いませんでしたが、4年ぶりに皇嗣殿下のご臨席のもと開催することができました。

今回の意見交換会は、弁士として筑波実験植物園の遊川知久氏と当園の藤川和美研究員による牧野博士と植物についての話を幕開けとして行われ、和やかな歓談の場となりました。皇嗣殿下も積極的に全国の植物園関係者と意見交換をされていました。

## ○研究発表(口頭・ポスター)

2日目は、全国の植物園職員の日頃の活動や研究の成果を発表する報告会が行われました。皇嗣殿下のご臨席のもと、7名が口頭発表によるプレゼンテーションを行い、独自性のある活動や研究の成果を発表し活発な質疑応答がなされました。続く11名のポスター発表では出席者がそれぞれ興味ある発表者のところへ行き、内容の説明を聞くと共に熱心な意見交換が行われていました。皇嗣殿下も発表者のポスターを一つ一つ順番に回られながら質問をされていました。

## ○エクスカージョン

3日目はエクスカージョンを実施しました。当園を見学するコースでは74名の参加者をご案内したほか、牧野博士ゆかりの地を巡る横倉山・佐川町コースや薬用植物の栽培現場を視察するヒューマンライフ土佐見学コースに計26名の参加者をご案内しました。午前中は雨模様でしたが、横倉山を訪れるコースでは全員が山頂の横倉宮までたどり着き、牧野博士命名のヨコグラノキを観察しました。ヒューマンライフ土佐見学コースでは佐川町で牧野博士のお墓をお参りしたのち、薬用植物栽培圃場の視察に向かいました。



エクスカージョンの様子  
撮影:白馬五竜高山植物園 坪井勇人氏

## ○地方事情視察

30日(火)の午後、皇嗣殿下のご視察のためにご来園されました。あいにくの雨模様で、傘を差してのご視察となりました。土佐の植物生態園では高知の植生を、牧野文庫では牧野博士直筆の植物図を、標本庫では標本貼り付け作業や牧野博士の植物標本をご覧いただきました。その後、展示館では、牧野博士が全国で行った植物調査や教育普及活動、妻の壽衛さんの献身的な愛情について解説をお聞きになり、中庭では牧野博士ゆかりの植物をご覧いただきました。温室については特に熱心にご視察いただきました。オープンしたばかりの植物研究交流センターでは、生薬や植物の成分分析研究についてご視察いただきました。(山本利彦)



展示館中庭ご視察の様子

Report

# 「らんまん」 高知ロケに参加

連続テレビ小説「らんまん」(NHK)

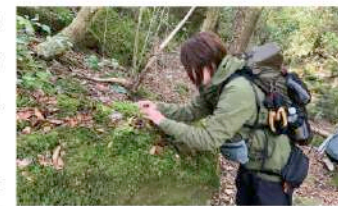
牧野富太郎博士をモデルにしたNHKの連続テレビ小説「らんまん」が放送されました。当園では、来園者の皆さまに、「らんまん」の放送とともに、植物をもっと身近に親しんでいただこうと、ドラマで紹介された植物の展示や、マップを作成し、ドラマとあわせてお楽しみいただきました。

## 高知ロケに参加

今年の3月下旬、高知の各地域で桜が満開を迎えるころ、2度目となる「らんまん」の高知ロケが行われました。高知ロケに際して当園では、植物研究課の鴻上、藤井、田邊の3名が越知町横倉山を中心に、台本の雰囲気にあった場所の選定から関わりました。また、当園で栽培するマルバマンネングサとヤマアイを提供し、撮影で使用いただきました。NHKドラマの撮影隊に同行し、植物の葉や莖の向きを一つ一つ丹念に修正してまるで自生しているかのように設え、違和感がでないよう努めるとともに、長時間にわたる撮影の中、植物が脱水しないよう水管理に気を遣いました。収録の合間にも、主人公の横野万太郎役を演じる神木隆之介さんは、万太郎のごとく天真爛漫で現場を明るくされていて、アオキに果実が何個ついているかをじっくり観察し、樹木に着生するセッコクについて解説すると興味津々な眼差しで聞かれています。ヤマアイを採集するシーンでは、西村寿恵子役を演じるヒロインの浜辺美波さんは、わずかに数秒のシーンにも関わらず、どのように掘ったらよいか、どのあたりを掘むのかなどを質問され、プロとしてのこだわりを目の当たりにしました。「万太郎にここにある植物でうんちくをいわせたい」との監督の要望に対し、職員が「果実が猫の目のようになるからヨゴレネコメソウ」というセリフはどうかと提案しました。そして、「史実ではこの時代にはまだヨゴレネコメソウは認識されていなかっただろうから、ネコメソウと言うようにしましょう」という植物学指導の邑田仁氏(東京大学名誉教授)のアドバイスに従って撮影が行われました。

この「らんまん」本編に登場した2種は、ちょうど6月中旬の放送の前に開花が見られたため、急遽『「らんまん」に出演した植物』として本館ウッドデッキにて特別展示を開始したところ、多くの来園者の関心を惹きつけました。

(藤井聖子)



撮影直前まで筆者が植物の微調整をしている様子



開花したマルバマンネングサとヤマアイの展示



撮影終了後、「らんまん」チーフ演出 渡邊良雄氏やスタッフの皆さまと記念撮影。植物学指導の邑田氏(後列左)、鴻上(前列左から2番目)、藤井(同左から3番目)。



令和4(2022)年10月快晴の中、撮影。左から上田氏、米倉氏、津田氏。

## 主題歌「愛の花」とともに登場する可憐な植物たち

「らんまん」のオープニングソングと共に流れる映像に登場する植物は、当園でも撮影されたものが多くあります。令和4(2022)年8月から牧野博士ゆかりの植物を中心に開花時期にあわせた植物の撮影が本格的にスタート。「高知の自然をメインに、本物の植物で撮影したい」と、担当のNHKドラマ津田温子氏や映像ディレクター上田大樹氏の想いを受け、植物の見ごろにあわせた撮影をするため、数度にわたる下見や綿密な撮影計画が組まれ、写真家の米倉ひろたか氏とともに、季節ごとに撮影にお越しいただきました。天候に気を揉む姿を何度か拝見しましたが、前日には必ず雨が上がるという奇跡がありました。雨上がりの植物たちは、万太郎さんとともに生き生きと映し出され、最後のカットでは、当園南園の結網山で、神木さん演じる万太郎さんが笑顔で駆け寄って来て植物をプレゼントしてくれるという、まさに牧野博士を彷彿させる映像を半年間楽しむことができました。

あいみょんさんの歌声と共に「草木への愛」が詰まった1分15秒。牧野植物園の完成を心待ちにして、植物園の建設がはじまった8日後に亡くなった牧野博士の、この地を訪れることができなかった想いを万太郎さんが叶えたものと感じています。(小松加枝)

## 「らんまん」で紹介された植物を園内で紹介

ドラマでは、牧野博士ゆかりの植物が数多く紹介されており、万太郎さんの生まれた佐川町の周辺に生育するバイカオウレンやジョウロウホトトギスなどがストーリーの重要な役割を果たしていました。当園でも、展示館中庭をはじめ園内各所で牧野博士ゆかりの植物を植栽しています。



ドラマで紹介された植物の解説ラベルにポップを付けてご案内

放送中は来園者の皆さまに、より植物に親しんでいただけるように、ドラマのオープニング、本編、本編終了後の「らんまん植物図鑑」に登場した植物をご案内しました。園内の植物解説ラベルに「らんまんで紹介されました」とのポップを付けたり、デジタルガイド「まきのQRガイド」でも、園内で撮影されたスポットやドラマに登場した植物を随時更新していました。また、インスタグラムでは、植物紹介とはひと味違うディープな「らんまん」情報を紹介し、スマホをお持ちでない方には、当園で配布している「見ごろの植物マップ」の裏面に、「らんまん」に関連する植物を開花期とともにご案内しました。

これからも植物の情報をドンドン追加していく予定です。牧野博士とゆかりの植物を体感するために、ぜひご来園ください!

(白田みのり)



Report

# 植物の不思議を体験する夏! 各イベント盛況のうちに終了

夏のマキノで「いろんな植物み〜つけた!」

例年にない猛暑となったこの夏。当園では、夏休みシーズンの企画として植物の不思議に触れていただけるさまざまなイベントを開催しました。

南園 温室で開催の「食虫植物展」では、どんなワナをしかけて虫を捕まえているのかを植物展示とパネルでわかりやすく紹介したコーナーが親子連れで大盛況。今年は牧野博士が描いた植物図と本物の植物を見くらべる展示も登場して興味深そうに観察する子どもたちの姿も見られました。展示会場をめぐって答えを探すプレゼント付きのクイズ企画も好評で、会期中の参加者数は2,500名を超える盛況ぶりでした。世界最大級の葉に乗る体験ができる大人気のイベント「オオオニバスにのろう!」では、葉に乗る子どもたちの泣き笑いをカメラに収めるご家族の賑やかな声が温室に響いていました。



毎年親子連れに大人気の「食虫植物展」

また、夏恒例「夜の植物園」では、園内各所の植物展示スポットを歩いてクイズに挑戦したり、夜咲き熱帯性スイレンやサガリバナなどを熱心に撮影したりと、ライトアップされた園内で夜にしか咲かない花の不思議な世界を楽しむ来園者の姿が印象的でした。

夜の植物園で  
展示ブースをめぐる来園者たち



また、夏恒例「夜の植物園」では、園内各所の植物展示スポットを歩いてクイズに挑戦したり、夜咲き熱帯性スイレンやサガリバナなどを熱心に撮影したりと、ライトアップされた園内で夜にしか咲かない花の不思議な世界を楽しむ来園者の姿が印象的でした。

また、夏恒例「夜の植物園」では、園内各所の植物展示スポットを歩いてクイズに挑戦したり、夜咲き熱帯性スイレンやサガリバナなどを熱心に撮影したりと、ライトアップされた園内で夜にしか咲かない花の不思議な世界を楽しむ来園者の姿が印象的でした。

(片山百合子)

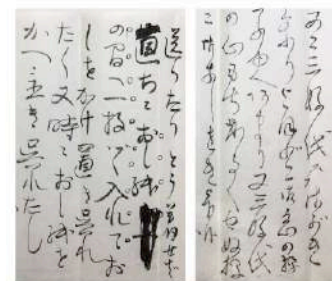
Report

# 牧野蔵の展示報告

書簡を読みとく

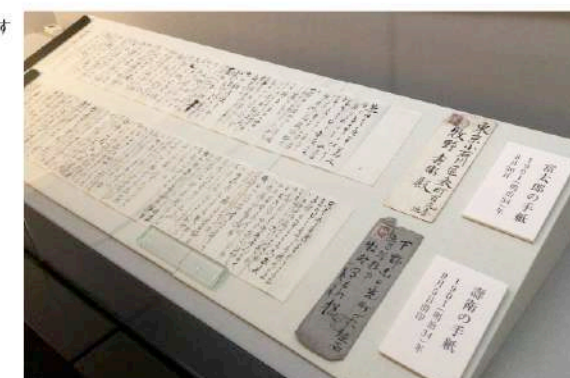
これまで植物図を紹介してきた展示館内にある牧野蔵。今年は牧野文庫に所蔵する牧野富太郎博士宛の書簡もあわせて展示することになりました。この春から紹介したのは栃木県日光市の洋画家 五百城文哉氏宅に滞在する博士と、東京で留守を預かる壽衛夫人の往復書簡です。

明治34(1901)年8月30日付の博士の手紙には、日光へ無事到着した知らせと夫人からの手紙を受け取ったことが書かれています。9月4日には帰京するつもりでいることや、別便で送った生乾きの植物におもしをかけて乾燥して欲しいことを伝え、そのおもしろ怪我をしないよう気をつけてと結んでいます。その返事となる9月5日消印の夫人の手紙では、



左:牧野博士の手紙の一部 右:壽衛夫人の手紙の一部

展示のようす



博士の帰宅予定日となる9月4日の帰りを待ちかまえていた子どもたちが、待ちぼうけて眠ってしまったことが伝えられています。また三好学氏から何通もハガキが届き、印象を悪くしないよう代わりに返事を出しておいたこと、この手紙を読んだら三好氏へ手紙を出して欲しいと博士のことを心配して気遣うようすがつつられています。

結婚当初は博士を頼りにしていた夫人が、この頃には留守宅を守り博士の研究を支え、博士から頼りにされているようすが書簡から伝わります。

同じく博士の研究を支えた人物に田中芳男氏がいます。田中氏はNHKの連続テレビ小説「らんまん」で主人公の榎野万太郎が東京の博物館で出会った一人、里中芳生のモデルとされる人物です。現在はこの田中芳男の手紙を展示しています。手紙にはどんなことが書かれているのか、それはぜひ牧野蔵でご覧ください。(村上有美)

Report

# 菅原一剛「MAKINO 植物の肖像」展 好評のうちに閉幕

「牧野標本」を芸術と科学的視点でみつめる

牧野富太郎博士が94年の生涯で収集した植物標本は40万枚以上。これらの標本は「牧野標本」とよばれています。この「牧野標本」の生命感と独自の美しさに感銘を受け、世界最高水準の1億5千万画素のデジタルカメラと技術を駆使して撮影した写真家が菅原一剛氏です。一点一点に光をあてて撮影し、微細な陰影が立体的に写し出された標本写真は、まさに植物の「肖像写真」。その作品は「牧野標本」を芸術としての視点から表現したものとイえることでしょう。



Room2みどり色の空間

この度、菅原氏の作品を芸術(アート)として、また

Room1さくら色の空間



本来の標本の役割、「牧野標本」を科学(サイエンス)として展示する企画展を7月15日(土)から10月1日(日)まで開催しました。展示会場には、アート(さくら色)とサイエンス(みどり色)をテーマにしたそれぞれの空間があり、Room1さくら色では、高精細なピンクブラチナプリントによるセンダイヨシノのほか、100x150cmに拡大されたヒメアジサイやコスモスなどの「植物の肖像」14点が展示されました。Room2みどり色では、被写体となった「牧野標本」や貴重な資料を特別展示し、標本採集の極意や世代を超えて受け継がれていく標本の科学的な役割を紹介しました。標本を通じたロシアの植物学者マキシモヴィチ博士との交流や妻の名を冠した「スエコザサ」発見のサイドストーリーなどもあり、多くの方に牧野博士と「牧野標本」の魅力をご堪能いただきました。(藤川和美)

Report

# 今や注目の的!? 常設展示「牧野富太郎の生涯」

マイナーチェンジで“旧態依然”からの脱却を目指して

「牧野富太郎の生涯」と「植物の世界」の2つのエリアからなる常設展示は、平成11(1999)年の牧野植物園リニューアルにあわせてオープンし、約四半世紀の間、来園者の皆さまに牧野博士の生涯や植物の基礎知識を提供してきました。昨今、ウォールケースや写真パネル・展示台などの老朽化が目立ちはじめましたが、過去、大規模改修されたのは、平成30(2018)年の「磨き上げ整備基本構想」における「展示館シアター」新設の際に刷新された「植物の世界」と、牧野博士に関連する小展示スペース「牧野蔵」



かつてない人気の「録音書庫」。  
牧野博士も嬉しそう!

のみで、残念ながら「牧野富太郎の生涯」は含まれません。牧野博士生誕160年を翌年に控えた令和3(2021)年に、常設展示の管理が植物研究課 研究推進・展示班に移行したことをきっかけに、旧態依然とした「牧野富太郎の生涯」の改善を一念発起。限られた予算の中、知恵と工夫により、褪色した展示台の貼り替え、変色した写真の差し替え、故障した映像展示等の入れ替えや機器の修繕、キャプションの追加や差し替えなど細かいものも含め、3年間で約200カ所を改修しました。折しもNHKの連続テレビ小説「らんまん」が放送され、「牧野富太郎の生涯」は時には人だかりができるほど注目を集めています。正直まだまだ改善の余地が残る常設展示ですが、増えつつある牧野博士ファンの皆さまをがっかりさせぬよう、少しずつでも修繕を重ねていきたいと考えています。(岡林里佳)



左:紫色に変色した差し替え前の写真(2021年) 右:差し替え後の写真



Info 園内ガイド有料化へ

当園では、植物園の成り立ちや見ごろの植物、牧野博士の生涯や業績について紹介する園内ガイドを実施しています。今春から一律無料で行っていた従来のスタイルを見直し、充実度を一層高めるため、園内ガイドを有料化しました。



同行案内のようす

園内を歩きながら解説する同行案内(4,000円〜)と、決まった場所で散策ルートなどをお伝えする定点案内(2,000円〜)に分け、人数や滞在時間、目的に応じた楽しみ方を提案しています。約8haの園地を彩る四季折々の植物はもちろん、建物や風景、牧野博士にまつわる展示など見どころは盛りだくさん! ガイドそれぞれの語り口で植物園の魅力をご紹介します。定員は10名より、来園日の半年〜2週間前までの事前申込制です。ガイド時間やお申し込み方法などその他詳細については、当園ホームページ「園内ガイド」をご確認ください。(松岡亜子)

園内ガイドについて [https://www.makino.or.jp/fixd/?page\\_key=guide](https://www.makino.or.jp/fixd/?page_key=guide)

News 牧野植物園オリジナル商品「マキノソルト」誕生

牧野植物園オリジナル商品となる「マキノソルト」は、マリゴールド株式会社(室戸市)との共同開発により誕生しました。この商品は、マリゴールドが製造する室戸海洋深層水塩に牧野博士命名植物であるイチバナの果実や葉と、薬用植物トウキの葉を配合しています。日本固有の柑橘といわれるイチバナは、現在、環境省レッドリスト準絶滅危惧種(NT)に指定されており、原料に使用した果実や葉はとて貴重なもの。今回、イチバナは奈良県産・鹿児島県産を原料に、トウキの葉は当園が小林製薬株式会社、大豊町東豊永集落活動センターと共同で試験栽培しているものを使用しました。



マリゴールド株式会社との共同開発商品「マキノソルト」

この商品は、植物研究交流センター3階、牧野ミュージアムショップ サクラにてお買い求めいただけます。希少な原料をふんだんに配合し、香り豊かな塩に仕上げた「マキノソルト」をぜひご賞味ください。(末岡昭宣)

Report 2団体からの寄贈

高知桜ライオンズクラブ様より、醍醐寺三寶院(京都市)の大玄関前の樹齢160年を超える「太閤千代桜」の後継樹として組織培養された「太閤千代しだれ」を寄贈していただきました。関係者20名以上が集まり、令和5(2023)年5月12日(金)に記念植樹セレモニーが開催されました。「太閤千代しだれ」は植物研究交流センター中門前の駐車場でご覧いただけます。

高知ロイヤルロータリークラブ様は今年で創立20周年を迎え、その記念事業として、園内の誘導サインを寄贈していただきました。当園は五台山の起伏のある土地に造成されたことから園路は小道が多く複雑です。また、NHKの連続テレビ小説「らんまん」の効果で入園者が増加している中で道に迷われる方が多くおられたため、今回の誘導サインのご寄贈は大変ありがたいお申し出でした。誘導サインは温室横の分岐点に設置しました。

この場を借りて、各団体、関係者の方々に改めて御礼申し上げます。

(中野善廣)



植樹セレモニーのようす



南園の新たな誘導サイン

News Makino original blend tea Ukon (ウコン) を発売

当園のオリジナル商品Makino original blend tea(製造/トトレ株式会社)のシリーズのうち、漢方で使用される薬用植物をテーマにしたKampo tasteに新たにUkon(ウコン)が加わりました。ショウガ科の植物であるウコン(*Curcuma longa* L.)の根茎は、カレーに使われる香辛料のターメリックとして知られていますが、胆汁の分泌を促す働きや抗菌作用をもつ生薬としても使われます。今回のブレンドティーではあまり利用されることのないウコンの葉を使うことで、ウコンの香味がよりゆたかに感じられる味わいとなりました。

植物研究交流センターに新しくオープンしたレストランC.L.GARDENでは植物解説カードを添えて、ポットサービスで提供していますので、レストランからの眺望を楽しみながらの一杯にいかがでしょうか。お持ち帰り用は園内ショップにて販売しています。他のブレンドティーとともに当園のお土産にぜひご利用ください。

(白河潤一)



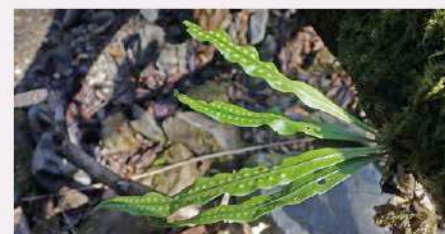
オンラインでも販売中 shop.nonoca.in

第4回目

牧野富太郎がtosaと名付けた植物

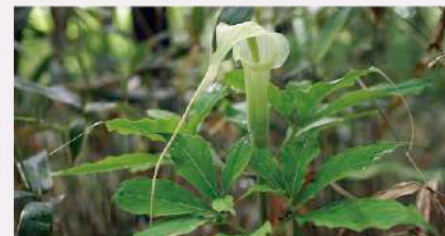
牧野博士が生涯に発表した学名の数は、種子植物とシダ植物をあわせて約1,500といわれています。その中には郷里土佐で採集した標本に基づくものも多く、そのうち学名にtosaと名付けた植物で現在も通用している9種を以下に紹介します。

*Lepisorus tosaensis* (Makino) H. Itô  
オナガウラボシ、ツクシノキノブ〔ウラボシ科〕



明治23(1890)年に*Polypodium Schraderi* Mett.の変種オナガウラボシ(新種)として吉永悦郷氏と自身が朴ノ川で採集した標本をもとに公表、明治36(1903)年にこれに*P. lineare* Thunb. var. *caudatum*という新変種名を与えて記載。大正2(1913)年には独立種として、*P. tosaense*なる新名を与え、朴ノ川山と今ノ山に産することを発表しました。これとは別に牧野博士は明治36(1903)年に「新撰日本植物図説」でツクシノキノブ(新種)*P. lineare* Thunb. var. *contortum* Christが日向に産することを記録しているのですが、現在はオナガウラボシと同一種とされています。紀伊半島・四国・九州、台湾・中国に分布。県内では低地から標高600mまでの山地に生育します。

*Arisaema tosaense* Makino  
アオテンナンショウ〔サトイモ科〕



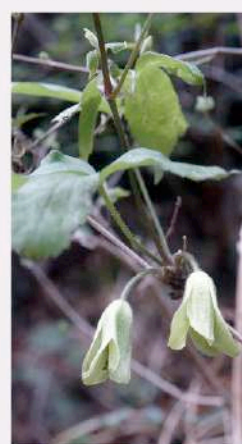
明治34(1901)年に自身が明治20(1887)年と明治26(1893)年に横倉山で、明治22(1889)年に仁淀川町泉で採集した標本をあげて新種として記載発表しました。本州(岡山県)、瀬戸内海(淡路島・厳島・周防大島)、四国・九州(豊後大島)に分布し、県内ではほぼ全域の500mほどの低山から1000mを超える山地にやや普通に生じます。

*Hypericum tosaense* Makino  
トサオトギリ〔オトギリソウ科〕



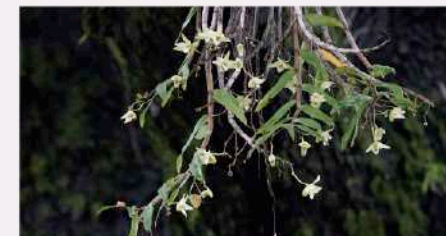
明治36(1903)年に自身が高知市一宮で採集した標本をもとに新種として記載発表しました。高知県のほか香川県、兵庫県にも分布するとされています。県内では高知市と香美市の蛇紋岩地に生育していましたが、平成6(1994)年以降確認されていません。

*Clematis tosaensis* Makino  
トリガタハンショウヅル〔キンポウゲ科〕



明治25(1892)年に*Clematis tosaensis*トリガタハンショウヅルとして鳥形山と富士山の標本をあげて学名と和名を公表。明治30(1897)年に簡単な和文の記載を加え、明治37(1904)年に自身が明治22(1889)年に鳥形山で採集した標本や立川工石山ほかの産地をあげて英文の記載文を付けて正式に発表しました。本州・四国・九州(福岡県・大分県・長崎県)に分布し、県内では物部村・大豊町・土佐田町・仁淀村などに記録されていますが普通ではありせん。

*Dendrobium tosaense* Makino  
キバナノセッコク〔ラン科〕



明治24(1891)年に「日本植物志図鑑」第1巻第8集46図版で高知市を産地に新種として記載発表。さらに明治38(1905)年に高知市のほか鹿児島や奄美大島の標本も引用して詳細な記載文を掲載しました。伊豆大島(八丈島)・四国・九州・琉球、台湾に分布。県内では中部から東部に生育しますが普通ではありせん。

*Rhododendron tosaense* Makino  
フジツツジ〔ツツジ科〕



明治25(1892)年に新種として自身が採集した須崎市上分桑田山の標本をあげて学名と和名を公表。明治37(1904)年に自身が明治20(1887)年に桑田山や明治21(1888)年に上分で採集した標本をあげて英文の記載文を付けて発表しました。和歌山県と四国南部、九州東部に分布し県内では海岸沿いから山地に普通に生育します。

*Chrysosplenium tosaense* (Makino) Makino ex Sutô  
タチネコノメソウ、トサネコノメソウ〔ユキノシタ科〕



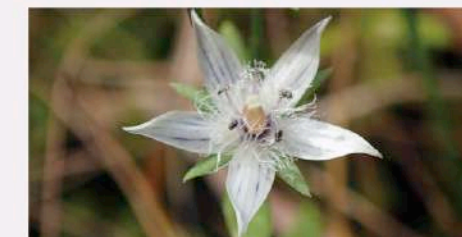
明治25(1892)年に自身の名野川の標本をあげて*Chrysosplenium tosaense*(和名)タチネコノメソウを新種として公表。明治34(1901)年にツルネコノメソウの変種に改め、英文で記載文を付し、名野川ほか鳥形山や立川工石山などの産地をあげて正式に発表しました。昭和10(1935)年に須藤千春氏が再度独立種とし、和名をトサネコノメソウとしました。本州(関東地方以西)・四国・九州に分布し、県内では低山から山地の湿ったところにやや普通に生じます。

*Sedum tosaense* Makino  
ヤハズマンネングサ〔ベンケイソウ科〕



明治25(1892)年に新種として自身が採集した斗賀野の産地をあげて学名と和名を公表。明治34(1901)年に自身が明治18(1885)年に佐川町カラタニで採集した標本をあげて英文の記載文をつけて発表しました。高知県中部の石灰岩地にやや稀に生育し、徳島県にも稀に見られます。

*Swertia tosaense* Makino  
イヌセンブリ〔リンドウ科〕



明治25(1892)年に*Swertia chinensis* Franch. var. *tosaensis*イヌセンブリとして学名と和名を公表し、明治36(1903)年に四万十町や黒潮町、宿毛市などの標本を引用し独立種として記載発表しました。本州・四国・九州、中国(中央部)に分布。県内では東部と西部の湿ったところにまれに生育します。

このほか牧野博士は、ピロードムラサキとムラサキシキブの雑種*Callicarpa* × *tosaense*オオバムラサキや、現在は別名とされている*Sciphila tosaensis*ウエマツソウの学名にtosaの名を付けています。(鴻上泰)

参考文献 高知県・公益財団法人高知県牧野記念財団. 2009. 高知県植物誌. 高知. 倉田恒. 1965. 日本のノキソブ属. 横須賀市博物館報 11:20-40. 大橋広好が. 2015-17. 改訂新版日本の野生植物1-4. 平凡社. 東京. 須藤千春. 1935. 日本産植物草葉集(其一). 植物研究雑誌 11(6):397-398. 田中伸幸. 2023. 牧野富太郎の植物学. NHK出版. 東京. 米倉浩司・梶田忠(2003). 「BG Plants 和名-学名インデックス」(YList), <http://ylist.info> (令和5年7月14日閲覧)



見ごろの花だより

Vol.44  
Flowers in season

カンラン

[ラン科]

*Cymbidium kanran* Makino

左上から時計回りに  
素心花、紅花、覆輪花、桃花



牧野富太郎博士が「植物学雑誌」16巻に学名を発表したことで知られるカンラン。この植物は人々の心を掴み、広く栽培されてきました。今回はカンランの顕著な魅力の一つ、花色をご紹介します。

カンランの花色は青、紅、桃、黄、白、更紗など多彩です。青花（黄緑～緑色）からは清々しい印象を抱きます。青花の中でも子房、花茎が緑色の個体は青々とよばれており、透明感のある緑色で染め上げたかのような姿には特有の味わいがあります。土佐寒蘭の「銀鈴」は美しい青花で、唇弁の桃点と全体的な緑色の対比が楽しめる名花です。素心花は花、子房、花茎が白から緑で、唇弁に斑点（模様）がなく、すっきりとしています。青花でも唇弁の色の有無や、子房・花茎まで緑一色かどうかで個体ごとに異なる趣を有します。紅花の色の濃さ、艶やかさに起因する存在感は見事で、外弁が

ピンと張った花形に濃色がよく映えます。桃、黄、白の花は柔らかい印象を受けます。桃花は上品な優美さがあり、黄花は淡い色合いが優しく、白花は際立った清楚さがあります。更紗花は内花弁に他の色が乗るようすを更紗（文様染めの布）に見立てた花で、独特の立体的な見ごたえがあります。

11月～12月上旬にかけては、当園で開催する「寒蘭展」を中心に色ごとに異なる魅力を放つカンランの姿をご覧ください。ぜひご来園いただきカンランのさまざまな花色の違いをお楽しみください。（片岡奈々）

植物の「なぜ？」

Vol.44  
Plants' Q and A

Q | 果実が追熟する種類はどう決まっているの？

A | 果実を食べる動物の生態と関係があるようです。

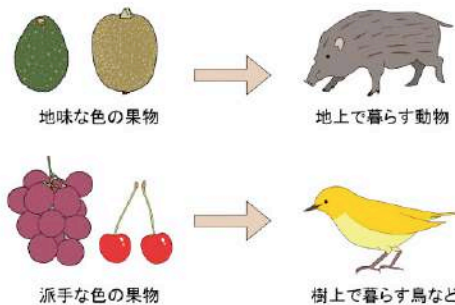


ツクバネガキ

スーパーなどの店頭で並ぶ果物には、まだ青く熟れていないものがあります。これは、果物が熟してから並べると売れる前に傷んでしまうということと、完熟するタイミングをすべての果実で同一にすることが難しいという理由があります。例えばアボカドやキウイなどはまだ固いものが売られていて、家に持ち帰った後に少し期間を置いておけば甘みが増し果肉が柔らかくなってきます。これを「追熟」とよびますが、サクランボやブドウは柔らかくなることはあっても、甘くなることはありません。

このような違いにはどのような生態学的な意義があるのでしょうか。果実は植物の子孫を残すのに必要な種子を必ず持っています。この種子が動物に食べられることによって遠くに運ばれ、新たな土地で芽生えることとなります。ここで植物にとっては二つの戦略が考えられます。それは、種子を地上で生活しているイノシシやタヌキのような動物が、樹上に棲む鳥や小動物に運んでもらうかというものです。追熟する果実を食べる動物は前者、そうでない果実は後者になるといった傾向があります。

追熟する果実にはデンプンなどの栄養分が蓄えられており、木から落下した後に糖分をつくり熟し続けることができます。完熟する前に果実を落下させることにより、果実が木の上にある時間を出来るだけ短くし、大きな種子を飲み込めない鳥や小型の動物に果肉だけを食べられてしまうような状況を回避できます。また、追熟する果物の表皮は緑や茶色のような地味な色をもつ傾向が強く、木の上であえて目立たないようにしているのではないかとこの説もあり。このように、果実の追熟は捕食者の生態と関わりをもって進化しているようです。（堀清鷹）

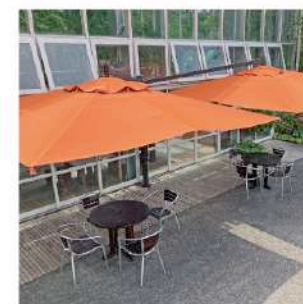


果物の追熟する/しない動物の関係

園地のできごと

Vol.44  
The gardening section's news

南園温室の  
憩いのパラソル



新たな色のパラソル

平成30(2018)年から南園温室の外に、一辺が3.5mの広々としたパラソル2台を設置しました。骨組みにはアルミが用いられ、木製のものより雨風で劣化しにくい強度となっています。ご来園の皆さまには雨よけや日よけをしながら、一息ついていただけてきました。そんな憩いの場として親しまれるパラソルのキャンバス(帆布)を、今回老朽化のため張替えを行いました。

張替えにあたり、前回から引き続き撥水性に優れたキャンバスを用いました。色は温室の躯体と周囲の植栽がより映える取り合わせとし、温室入口付近に設置しているパラソルと統一するため、白からオレンジ色に変更しています。

休憩される際は、パラソルの下から見下ろす南園の景色もお楽しみいただければと思います。特に春のサクラやツツジの仲間が咲く時期は華やかです。今年の5月20日(土)にオープンした植物研究交流センターも望むことができます。温室にお立ち寄りの際は、ぜひご利用ください。

(濱田妙子)

身近な植物を知る

Vol.47  
Plants close to us

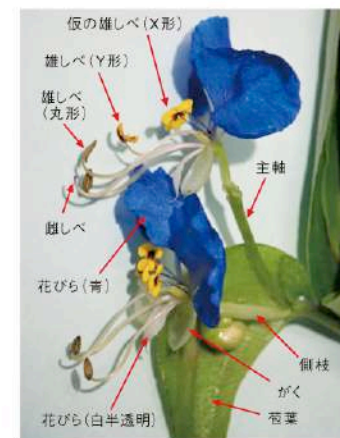
ツククサ

[ツククサ科]

*Commelina communis* L.

あぜ道、道ばたや野原で見かけるツククサは、日本を含む東アジアに生育する一年草です。少し詳しく見ると、毛の生える部位によって、ツククサ、ケツククサ、ハマツククサなどに分けられます。まず、花を包む二枚貝状の苞葉という部分と葉に毛が生えていなければツククサです。苞葉に毛が生えていて葉に毛が生えていなければケツククサ、苞葉と葉の表面が裏面に毛が生えていればハマツククサになります。

ツククサの花は、がくが3枚、花びらが3枚、雄しべが6本、雌しべが1本ですが、よく観察しないとそれぞれのつくりを区別することは困難です。青い花びらは2枚で、もう一枚の花びらは下向きの白い半透明のもの。また、雄しべも上側にX形が3本、真ん中にY形が1本、下側に丸形が2本あります。正常な花粉が出るのは真ん中と下側だけで、上側の3本は正常な花粉が出ない仮の雄しべです。仮の雄しべは目立つことから、虫を引き付けるための目印と考えられています。(橋本季正)



ツククサの花のつくり

Staff's recommendation

スタッフに聞く!  
植物園の見どころ Vol.47

教育普及推進課  
宮地清佳のおすすめ

現実と映像で実感する  
四季の移ろい

当園の展示館シアターでは、4作品のオリジナル映像を上映しています。その中で、植物園の四季の見どころを紹介する「牧野博士とめぐる植物園カレンダー」という作品が、私のお気に入りです。

4Kの大画面で見るダイナミックな空撮ドローンの映像は、新緑の木の葉それぞれの緑色の違いを鮮明に映し出していてとても綺麗です。葉を落として賑やかな色彩を潜めている植物が多い冬の間は、この作品を見ると春夏を待ち遠しく感じます。そして来る季節に、映像と同じように現実の植物園の景色に色彩が足されていくのを見て、その移ろいを実感するのも私の楽しみのひとつです。

作品で微速度撮影による植物の開花の映像を見ておいて、実際に花の開き具合を確認しに行くのも、花の構造やしぐみを観察するきっかけになります。いつ見ても、次はこれを自分の目で見てみたい!と園地に繰り出したくなって、実際に行ったら新しい発見をすることも。

1年を通して視聴をおすすめしたい作品です。



緑鮮やかな夏の南園の映像